

開拓使榎本武揚

支出未戻間只管數ヶ敷存候何分モ宣敷殿上度御報知
ノ急キ奉待上候以上

榮濱

十五日朝

會所印

楠溪御會所

御帳場御中

明治七年七月十九日午前第七時ヨリ苗刈川
鰯漁場魯兵卒暴行一件談判トシテ中判
官長右部辰連認官田中清筆記權大主
典廣田々秋同道亟泊ニ於テ魯國兵隊首
長カヒタン^官シシ^シグロフスキ^人居宅ニ至リ尤モ通

被

先達而所話スス^フイ^ケン^ニ吟味ノ事ハ今日ニテモ取掛リ
ルテ宣敷光

致

開拓使榎本武揚

吟味者誰ぞ致し哉

彼

キトフに申付哉

我

今日外之事ニテ談判申立罷出此儀ニテ見合

被下度哉

彼

系知致哉

我

苗刈川鱒漁魚之儀ニテ前ニヨリ談判合致ト来リ

此儀有之ハ此系知ニ此哉

彼

別ニ系知不致哉

我

苗刈川漁獵ニ付而者先年ヨリ屢ニ間違ト有之且ツ

スエルクヲ氏ヨリ拙者ニテ談判談ト有之此ヨリ條約取換ニ

其後デエルトウヲ氏尚亦堀ニテ談ニ寄リ條約致シ置キ

此儀モ有之此處此七日前貴國人田記ヨリ苗刈ト来リ

漁獵ニ儀ニ付頻リニ談ニ此由之處同所漁民ハ並而條

約ニ旨趣相守リ此儀ニ付何分系知難致旨相答此處

貴國兵卒三千人争り来り川に強網ヲ断テ引揚ケ
漁業ノ妨ヲ爲シ其由誠ニ不都合ノ事ト存ル

彼

前ニミ事ハ相用デテ宜敷ト存ル

我

素ヨリ同所漁獵ニ便ニ付而者前ニヨリ混雜セ有
之且ツスルチニ氏ヨリ松者に頼談之節夜ニ下ケ
網ヲ揚ケル事ニ條約致シ其後ホウニシ氏ヨリ砥
御頼談ニ付三週間ニ五日目毎ニ網ヲ揚ケル事ニ取
極メ置然ルニ貴下書面ヲ以テ余令有之故兵隊

等断モテ網ヲ引揚ケ川端日步捨杭ヲ板ヲ取ル由
同所ヨリ訴出老右ハ漁民ノ難渋ハ勿論約ヲ破リ不法
ノ被成方松者甚ク不快ニ存ル

彼

魚ノ川上ニ登ラザレハ田記ノ者食料ニ差支テ故網ヲ
引揚ケル儀ニ有リト

我

先年貴國都府ヘテアルブルグに我方ヨリ使者罷出ル所
貴國政府ト條約取換ハシタル中ニ第一條目ニ産業ニ付
初メ着キセシ處に其長官ニ不適合猥リニ申下シ

後倭者不相成事。而同所之倭者我方。而數年来
ヨリ初ノ年ヲ下シタル處。有之然レ。貴方人ハ漁業之時
機。臨ミ度ハ折々漁獵ヲ妨ケ甚タ不都合。有之也故
只今申通。スヘンケコフ我デフレトウサケ氏。間違。生
為。ソ條約致シ置。此後。有之也

彼

テフレトウサケスエルケコフト。約定書拜見致シ度哉

我

條約ノ書類ハ貴方ニモ可有之也今度ノ事ハ。邊約ハ勿
論斷モ。テ無理。張綱ヲ引拂ケ抗ヲ振キ捨タル不法

活處分ハ如何ニ我

彼

條約書ヲ拜見致シ。此上。活處合可申也

我

素ヨリ最初ノ條約ニモ初ノキヲ下シタル處ヲ侵ス事ハ不
相成且松者。是堀ニテモ條約致シ置。此。付其事柄ハ。畢
我長官ト申立置。此後。得ハ貴下。活懸合不致。直
此度ノ趣ヲ我長官。下。遣。此心得。考慮。急テ。所。父
際申故。一應。以懸合。罷出。此後。有之也

彼

條約書ヲ拜見致シ此上尚ほ懸合致シ然レテ其旨趣ヲ
海邊地方長官ニ申立イッ返モ變セヌ様定約可致ル

被

條約書者此目ニ懸ケ可申此間貴下我乃ハ此未
臨ニテ此寫取相成ルリ宜敷ク此夫ハ兎ニ角今日之處
ハ條約通りニ不相成可者不都合ニ此右者如何此
取斗有之哉

被

ソペーヤン^{滿州人}ノ事^{事ナリ}存此貴方人之訴ヘテ貴下ヨリ此
申候ニ付宜、呼寄^取事ニ有之今夜ハ田肥ヨリ

食料不足之趣訴ヘ出ル有夫レテ信シ細ヲ引揚サセ
ル事ニ有之ル

被

ソペーヤンノ事ハ此者ヨリ此懸合致シ此上取斗ニ
相成ル儀ニ有之ル今度之事ハ素ヨリ此素知ニ世
ニ美ニ此ハ此者近此話ニ有之可然事ニ此然ル
何ノ不都合モナリ限ニ此等ヲ以テ細ヲ揚ケル儀ハ
不都合ニ此間本通り取繕ふ後條約ヲ違背不致
様此命令有之度ル

被

開拓使榎本武揚

系知致しれ苗圃ヨリ貴國人に誰可参み哉

我

漁民参りぬ尤今日帰ル筈有之れ

彼

其人ニ主翰ヲ頼みせし度れ

我

書面ハ只今亦遣しは來たぬハ松者待歸り直ニ相

届くら様可申付れ

我

昨日可歸り留立キハ候し直ニ松者ハ昨

夜ニ有之度れ

彼

今ニ筆者参りぬ直ニ相認ノサセ差上り聞丈迄

以待被下度れ

我

所書面以遣しは多者其上趣松者ハ知ラセ

被下度れ

彼

系知致れ

暫時ニテ首長書面ヲ持て來り讀み聞カズ
開拓使榎本武揚

其旨趣ハ概畧如此

首長ヨリ苗圃互當下等士官宛

苗圃川ハ張網セシテ引揚且ツ杭ヲ拔キ捨テ直ニ
本通リニ取直スヘシ其事ハ付之話レ取極直ニ出ス
事不相成漁獵ハ日本人之意ニ任スヘシ未だ疎
暴之事ヲ為ス可カラス

右ヲ封シテ渡ス

被

今ニコソライフスシヨリ長官見廻リニ参リ此等ニ付其
節條約モ取極相成セリ宣數也

被

我長官モ毛飼、上可取極也今度可也参長官ハ
何官ニ人ニ有之也哉

被

昨年参リ此ケ子ラリル確シマフ故ヨリ上官ノ者可参
答ニ也

被

スプーケンノ事ナク以話シテ度也

被

可参也

附抄傳抄太夫

附抄傳極丸書

被

度

スプーを取調れ。付うハ妻下ノ疑有之。庶美家
同人モ歸シテ宣敷者ニ此リ。速ニ歸シ度亦付スヘ
キモノニ此リ。當地ニ而處置可致也

被

何レモ明日ナトフ氏宅ニ書類ヲ持參委細ニ可相託也
彼

ナトフニ内ニ出處有之。此トモ同人ヨリ直ニ此答ヲ託ニ
者至リ難クハ。則松者宅ニ此臨ニ有之。度也
被

義知致シ。明日參館可致也

右ニテ早ル

開石史庫ノ文憑

漁獲を各親父が捌き揚げる。奥の砂利を
我々がその、分地へ平修する。我

我

おれ、このハ修する。奥の砂利を
年がかりに奥の砂利を奥の砂利
波の、その、奥の砂利を奥の砂利
おれ、その、奥の砂利を奥の砂利

奥の砂利を奥の砂利

修する。奥の砂利を奥の砂利

我

おれ、その、奥の砂利を奥の砂利

おれ、その、奥の砂利を奥の砂利
おれ、その、奥の砂利を奥の砂利
おれ、その、奥の砂利を奥の砂利
おれ、その、奥の砂利を奥の砂利

おれ、その、奥の砂利を奥の砂利

おれ、その、奥の砂利を奥の砂利
おれ、その、奥の砂利を奥の砂利

我

おれ、その、奥の砂利を奥の砂利
おれ、その、奥の砂利を奥の砂利

掃クルハ分端多ク候云

彼

デフレラウヤチヌエチニウモ已ル南地ニ在ルハ
長安ノ修路ヲ交換ニ有ルナリト云フハ修路ヲ
換ハシ交換ナリ

我

考ルモ自出タル修路多クナリト云フハ
ナリト云フハ極少ナリト云フハ極多ナリ
我ニ云フハ我ニ云フハナリト云フハ
極多ナリ

彼

考ルハソコニ長安多クナリト云フハ
極多ナリト云フハ極多ナリト云フハ

我

長安多クナリト云フハ極多ナリ

彼

東ハ長安多クナリト云フハ極多ナリ
ト云フハ極多ナリト云フハ極多ナリ
ト云フハ極多ナリト云フハ極多ナリ

キトフ

此年抄看己過りし事迄とも我よりいふのハ魚屋
塩漬年一巻に當りたる所なり抄るより申出さ

みより年ル

様太ヨリ相曲及事件三條ノハ
二通ハ此コテ所屬お悔此強ぬハ
一件々り所屬にお事なりぬ事上
いふお曲り兼源曲付ハ明後
日ハ早リ差出ハのじ心付く事ハ
所檢りたる事ハ此年終り所事
ハ月廿五日 庶務課

長官云

閣下

外國人雇繼ノ義清廟

当使清雇農業方米人エトウ井ントン本年
八月五日ノ清朝ノ屬都合ニ當リ給料
并條約面等表前ノ通ニテ尚モ本年雇
繼供條此段清雇申上供也

明治七年五月二十五日 開拓使官黒田清隆

太政大臣三條實美殿